

郷土の詩人

安西均

—筑紫びとのこころ

安西均をご存じですか。詩集のほか数々の著作を発表、筑紫野市出身の日本を代表する詩人の一人です。平成30年には生誕100年を迎えました。今回の特集では、改めてその功績などについて紹介します。

安西均（本名 安西均）は、新聞社、出版社などに勤務しながら現代詩壇で活躍しました。詩集のほか随筆や評論など多くの作品を残しました。昭和56年から2年間は日本現代詩人会の会長を務め、平成5年には勲四等瑞宝章を受章しています。その功績を讃えるとともに、ふるさと筑紫野への思いについて掲載します。

九州から中央の詩壇へ

大正7年に現在の筑紫野市筑紫に生



詩人 安西均

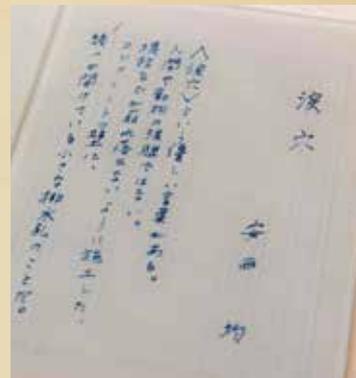
また安西均は、15歳から短歌を作り始め、市内永岡出身の詩人・岡部隆介に誘われて詩の世界に入りました。

戦中・戦後にわたり新聞記者をしながら同人グループと交流し、数多くの詩誌に関わっています。中でも久留米の丸山豊、小郡の野田宇太郎と出会い「母音」に参加、伊藤桂一などの「山河」、高田敏子主宰の「野火」に参加するなど、九州の詩人をはじめとした多くの詩人・作家などと交流を深めました。九州から東京に活動の場を移した後、日本現代詩人会で理事長、会長などの要職を務め、尽力しました。

「私の古里 筑紫の国といへば雪解も早い辺境である」

— 老いた梅の木のやうに

第一詩集『花の店』所収



最後の作品と言われる「涙穴」の直筆原稿（複製）（歴史博物館所蔵）

晩年、入院中には延べ五百人以上の見舞いがあつたとの記述もあり、多くの人に慕われていたことが分かります。

ふるさと筑紫野への思い

安西均は、故郷の筑紫野に深い愛着を込めた詩を綴っています。天拝山の山頂にたつ老齢の松が台風で倒れたことを惜しむ詩「天拝古松」、筑紫の小字名や歴史をたどる長編散文詩「頼白城記」などがあります。

また、詩の他にも「コラムの名人」でもあり、昭和52年6月から西日本新聞

市民図書館前の「天拝古松」詩碑。
「子供たちの目線の高さにあった、(中略)つましい碑が好ましい。」(雑誌「詩学」平成6年2月発行より)

に連載した随筆「宛名を忘れた手紙」の中で、生まれ故郷の筑紫のこと、筑紫神社の思い出や由来の研究などを掲載しています。最終回には「筑紫」という名のふるさとの円周から、所詮は遠くに抜出ることのできない自分の姿を、あらためて顧みるのである。」と故郷への憧憬を書いています。

安西均の著作は、筑紫野市民図書館「郷土の作家コーナー」で一部を除き、貸し出しています。また、筑紫野市歴史博物館でも「詩人・安西均コーナー」に寄贈を受けた資料などを展示しています。
(文中敬称略)

安西均略年譜

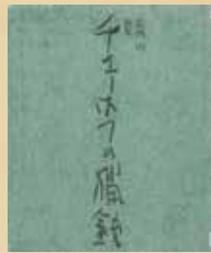
- 大正7年 3月15日 筑紫郡筑紫村大字筑紫(現筑紫野市筑紫)に長男として生まれる。
- 大正13年 筑紫村立筑紫尋常高等小学校に入学。
- 昭和7年 福岡県立福岡師範学校に主席入学。
- 昭和8年 15歳 短歌を作り始める。
- 昭和11年 同村の先輩・岡部隆介の影響で短歌を離れ、詩に向かう。師範学校退学。
- 昭和14年 「九州文学」同人となる。丸山豊と知り合い、また野田宇太郎らが創刊した「抒情詩」に同人として参加。
- 昭和15年 22歳 洗礼を受けキリスト教徒となる。野田の忠告によつて上京、小山書店に入社。
- 昭和18年 25歳 小山書店退社。福岡に戻り、朝日新聞福岡総局記者となる。
- 昭和20年 27歳 軍政記者の基地見学で九州各地を回る。8月15日終戦。
- 昭和21年 28歳 谷川雁と出会い、以後終生親交する。岡部らと「九州詩人」を創刊。
- 昭和22年 29歳 丸山豊を中心に創刊された「母音」に同人として参加。
- 昭和25年 朝日新聞東京本社学芸部に転勤。草野心平の誘いで「歷程」に参加。
- 昭和30年 37歳 第一詩集「花の店」出版。伊藤桂一らと「内在」創刊。
- 昭和34年 福岡へ転勤命令。その後、朝日新聞社を退社。高田敏子らと「銀婚」を創刊。
- 昭和56年 日本現代詩人会会長に就任。
- 昭和58年 第八詩集「暗喩の夏」で第一回現代詩花椿賞を受賞。
- 平成5年 筑紫野市が詩碑建立の許諾と協力を要請。11月、勲四等瑞宝章を受ける。
- 平成6年 2月8日、結腸がんのため逝去。享年75歳。

安西均著作の一部(筑紫野市民図書館所蔵)



「詩集 指を洗ふ」
(花神社)

病床から発行された最後の詩集



「詩集 チェーホフの猟銃」
(花神社)

第7回現代詩人賞を受賞した第十詩集



「宛名を忘れた手紙」
(鉱脈社)

西日本新聞連載と雑誌「詩学」連載などをまとめた随筆集



「選詩集 遠い教会」
(教文館)

キリスト教にまつわる詩を集めた選詩集



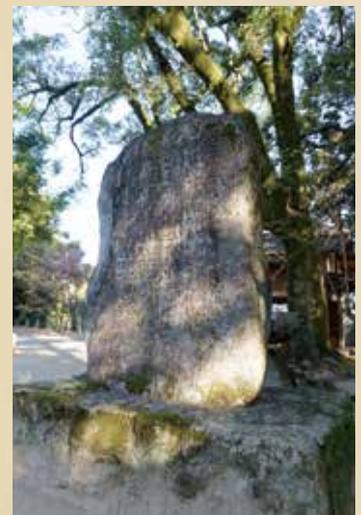
市民図書館の「郷土の作家コーナー」には、著作を多く取り揃えています



歴史博物館の「詩人・安西均コーナー」には、寄贈を受けた資料などを展示しています

筑前・筑後を合せて「筑紫の国」と名づけ九州を「筑紫の島」とさえ称したああ、かくも大いなる筑紫ここはその発祥地であり中心地であるここ筑紫のまほらばに鎮まる産土の神はわれわれの遠い祖先の喜びであり現代のわれわれの誇りでありわれわれの子孫が受けつぐべき聖域である

遙かな古代



筑紫神社境内にある詩碑「遙かな古代」

筑紫よかまち協議会

安西均 献詩事業

生誕100年を記念して

筑紫よかまち協議会(以下、協議会)は、筑紫小学校区11行政区によるコミュニティ運営協議会です。

協議会では、地元出身の詩人・安西均の遺徳をしのび、顕彰するために、市民から詩の募集を行い、「郷土の詩人安西均 献詩事業」を行っています。

安西均生誕100年を記念して始まったこの事業は、平成28年度にプレイベントとして実施され、翌29年度に



▲安西均顕彰詩集

は30年2月に行われた「安西均生誕百年記念式典」において表彰式が行われました。

以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、表彰式が実施できない時期がありながらも、献詩事業は毎年度実施されています。

今年も2000編以上の応募

今年度(令和4年度)も小学生391編、中学生1014編、高校生・一般754編の計2159編の応募がありました。

選考には、事業開始当初から関わっている福岡県詩人会の皆さんにより、一つひとつ丁寧に行われました。その中から、特に優れているとされたものに、特選、一席、二席、三席、佳作と入選作品が決定し、表彰式が2月11日(土・祝)に筑紫コミュニティセンターで行われました。

次の5ページでは、令和4年度応募作品から特選となった3作品を紹介し

ます。

また、入選した詩を一冊にまとめた「安西均顕彰詩集」を発行しています。

発行された詩集は、市民図書館や筑紫コミュニティセンター、筑紫小学校区11行政区の公民館で読むことができます。

協議会では、毎年小学生の部、中学生の部、高校・一般の部に未発表の自由詩を募集しています。ぜひご応募ください。

●この記事についての問い合わせ先
秘書広報課
☎(923)1111

●献詩事業についての問い合わせ先
筑紫よかまち協議会
☎(577)6654



▲入賞者全員に賞状が渡されました

Interview



筑紫よかまち協議会
会長 川上 弘道 さん

感性を表現する機会として

筑紫よかまち協議会では、安西均さんの業績を広く末永く讃えるとともに、多くの人に現代詩へ関心をもっていただければと願い、市全域を対象に献詩を募集して、優秀作品への表彰式を継続してきました。

今時、さまざまな電子機器が発達し、大切な感性を表現する機会が少なくなっています。美しいと感じたこと、うれしいと思ったこと、楽しかったこと、思い出を詩で表現することは、大きな活力となり、人間関係を豊かにすると思います。

応募作品は、市民の皆さんの心の表現集です。多くの皆さんにお読みいただき、来年度の献詩事業の際には皆さんの感性を表現した詩の応募をお待ちしています。

令和4年度小学生の部特選

ろうそく

筑紫小学校 4年 つつみゆりか

わたしのたん生日
ケーキにろうそくともしたら
ろうそくもいっしょにうたっている
ふーっとひといきふいたら
音をたてずに去っていく

お母さんのたん生日

あまいケーキにろうそくともしたら
ろうそくもいっしょにおどっている
ふーっとひといきふいたら
なにもいわずに去っていく

お父さんのたん生日

あまいあまいケーキにろうそくともしたら
ろうそくもいっしょによろこんでいる
ふーっとひといきふいたら
足音たてずに去っていく



▲小学生の部、受賞した皆さん

令和4年度中学生の部特選

バター

筑山中学校 3年 寺崎友哉

夢のなかで鳥が鳴く
すうっと目を覚ませばそれはアラームの音
睡魔との死闘を繰り広げながら、僕はリビ
ングへと足を進める。
ほうっと香るバターの匂い。
バターのぬられた食パンが黄金に輝く。

パンを食べて部屋に戻る。

迫り来る「今日」に恐怖を感じ
見えない「何か」が常に自分の背後にいる
小さかった頃の瞳に映っていた世界とは全
く違う色となってしまった世の中をただ
ひたすら漂っている。

いつも何かを忘れていく気がする。
しかし、朝食のバターパンは、何年たつて
も変わらない。
僕の口には、まだバターの味が残っていた



▲中学生の部、受賞した皆さん

令和4年度高校・一般の部特選

待ち合わせ

筑紫高等学校 1年 菅谷月姫

お昼過ぎ、いつものようにお出かけ準備。
いつもよりちょっとおめかし気分。ママには
秘密の二人の約束。昨日二人でこっそり決め
た、「ちょっとそこまで。」一言言って扉を開け
た。心を躍らせ体も躍らせスキップ混じりで
駅まで行った。約束の時まであと少し。乱れ
た髪を整えて、荒い呼吸を整えて、駅のホー
ムをじっと見る。なんて声をかけようか、な
んてことを考えて。人が沢山降りてきた。私
はすぐに気がついた。よれたYシャツ黒い鞆。

いつもはもっとよれたYシャツ。今日はちょ
っとしわが少ない。改札口から声がした。私
を呼んでる大好きな声。私は急いで駆け寄っ
て、子供みたいに抱きついた。

「おかえりなさい。お父さん。」
待ち合わせ時刻は午後三時。

待ち合わせ時刻は午後三時。



▲高校・一般の部、受賞した皆さん

詩は子どもの感性を引き出す

この事業は、全国的に知られて
いる地元出身の詩人、安西均
さんを顕彰することで、文化の
醸成を図ろうと、協議会で始ま
り、当初から関わってきました。
毎年、市立小中学校、市内の高
校と一般に詩の募集を行って
います。応募された作品を福岡県
詩人会で選考していると、素晴
らしい作品がたくさんありま
す。感性豊かな子どもたちが多
いことにいつも驚いています。
詩を書くことで子どもたちの感
性を引き出し、心の豊かさを養
うことができると思います。

将来は、市内だけを対象にす
るのではなく、県内や全国を対
象にすることで、安西均さんの
功績や筑紫野市が広く知られて
いくことができると考えていま
す。



福岡県詩人会
田中 圭介さん